

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1174501153		
法人名	有限会社 いなすず		
事業所名	グループホーム いなすず		
所在地	埼玉県熊谷市道ヶ谷戸238		
自己評価作成日	平成23年12月20日	評価結果市町村受理日	平成24年2月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kohyo-saitama.net/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ユーズキャリア		
所在地	埼玉県熊谷市宮前町2-241		
訪問調査日	平成24年1月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に囲まれた緑豊かな環境の中で、天気の良い日には散歩に出かけ、顔なじみになった近辺の方々、農作業をされている方々との触れ合いを持っています。又、食事時にはそこで収穫された野菜や果物が食卓に並ぶこともあり、散歩中にあったこと、見たことなどの話で会話も弾み、楽しい一時を過ごしています。
入所されている方々には地元の方が多いため、近くのスーパーで買い物をしたり、神社のお祭りなどの時にはお参りに出かけたり、時にはホームの広い庭で青空を眺めながらお茶とおしゃべりをするなど、住み慣れた地域で慣れ親しんだ生活を送っていただいています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは、熊谷市郊外の広大な畑が広がる静かな地域にある2ユニット定員18名のホームである。菜園と中庭の向こうに同一運営の小規模多機能事業所「御隠居亭」が隣接し、日常的に交流している。「のんきに、ようきに、ほがらかに」を理念とし、制約や強制をせず、入居者の希望や意向を大事にした生活支援を提供している。気分転換と健康を兼ね、毎日のように散歩や外出を取入れ、ゆとりを持ち、ゆっくりとした日常生活を楽しんでいる。豊富な食材を丁寧に調理し、作りたてを職員と一緒に和やかな雰囲気の中で食している。「御隠居亭」と合同で行う夏祭りは、地域の方々が準備から後片付けまで協力的で、多くの参加者があり、一大イベントになっている。職員間のコミュニケーションもよく、支援に対して前向きに対応している。今後も地域の中で期待される事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	三つの理念に基づき利用者様の立場、ペースに合わせ、あせらず、ゆっくりとした成果との中から、笑顔が引き出せるよう対応している。	三つの理念「のんきに、よきき、ほがらかに」について、具体的にどのような事を指すのか話し合い、文章で表現し、共通理解し、実践に結び付けるよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の小学校とイベント等で交流を持ち、又地域の方々がボランティアに参加して下さっている。又、夏休みを利用して高校生が一週間来てくださりました。	散歩中に畑仕事をしている方と挨拶や世間話を交し、収穫物等を頂く事もある。隣接の「御隠居亭」東屋で利用者や交流もしている。地域のボランティアや小学生、高校生の訪問もある。夏祭りは地域住民が準備から後片付けまで関わり、盛大に行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のボランティアの方々と交流を図ったり、見学や電話での相談を随時受け入れている。又、夏祭りには地域の方々を招待し、一緒に楽しんでいただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の際に状況を報告したり、評価について報告、話し合いを行い、意見を求めている。行事に参加していただくことで利用者様との交流を大切にしている	回数増に努め、23年度は4回開催した。地域包括支援センター職員、民生委員、市議会議員、ボランティア、入居者とその家族、ホーム職員等が参加し、現況や行事計画の説明、及び、報告等を行い、その後意見、要望、質問等を頂いている。	回数増への取り組みは評価出来る。今後はより多くの家族が参加出来るよう日程等を配慮し、意見、要望、提案等を表出し易いよう工夫し、更に充実した会議となる事が期待される。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ご家族からの相談などでわからないこと、ホームとしてできることがあるかなど、広域、地域包括の方に伺うなどしている。空き情報なども提供している。	必要に応じて相談や報告等連絡を取合っている。3ヶ月毎の地域包括支援センター主催の地域密着型サービス事業所会議に職員が交替で積極的に参加し、情報交換や研修の機会としている。会議は議題提供、司会、進行を各事業所が当番制で行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないためのマニュアルを用意して、職員で回覧している。	状況が安定している現在はない。マニュアルで拘束の弊害を理解したり、現場での気づきを早い時期に取上げ、再確認し合っている。玄関の施錠は外部からは開放出来、内部からは出来ないようになっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止のマニュアルを用意し、職員間で回覧している。又、テレビや新聞などで気になることは話題に上げ、話し合ったり、ファイルに入れ閲覧できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修や勉強会に参加したり、地域包括の担当者と連絡を取り合うなどしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご本人やご家族様に何度でも自由に見学に来ていただき、不安や疑問点などは十分に説明し、話し合いを行い、納得した上で契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。又、面会に来られた時や電話をいただいた時には、お話を伺うよう心がけている。	意見箱を設置しているが、意見は寄せられていない。生活の様子を面会時や電話で伝えながら意見等を聞いたり、話の中から把握するよう努めているが、個人的な事柄が多い。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度職員会議を行っている。休憩室に次回職員会議の際の議題、問題点や気付いたこと、改めたいことなどを自由に書き込めるよう用紙が置いてある。	月一回の職員会議前に職員個々から提案、意見、希望等を自由に出してもらい、会議時に全てを取上げ、話し合い、必要に応じて改善を実施している。これまでに換気扇清掃やカーテンの洗濯、西日対策等の改善を実施している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の苦情や意見を積極的に聞くようにし、職員が楽しく働けるよう、改善できるところは改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の情報を提供し参加を促している。適材適所、研修等に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	包括支援センターや地域の病院を通して他のグループホーム同士での勉強会や情報交換を行っている。意見や情報を運営推進会議へ生かして行きたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時は不安や戸惑いが見受けられます。職員からの声かけ、誘導を行うことで少しずつホームの生活に慣れていただけるよう心配りをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメント表に記入する際、ご家族やご本人様から多方面におけるお話を伺うようにしている。毎月ご家族に近況報告書を提出し、又必要な場合は、電話などでの連絡を取り合っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者様にはホームでの生活に慣れていただけるようお手伝いをしていき、対応が難しくなられた場合は、相談の上他の施設を紹介している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物や食事配膳前の準備を通して、ご利用者様と職員が共通する時間を設けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事ごとがある時、ご家族様にも声をおかけし、参加していただくことで、共有する時間を設けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外食や買い物を通じて馴染みの場所に出かけるようにしている。又、お彼岸などにはご家族とお墓参りにも行かれています。	馴染みの理美容院へ出掛ける方、訪問理美容師と馴染みになって利用している方等、個々の意向を尊重して支援している。外食や買物、墓参り、一時帰宅等の希望を取入れ、人と場との関係継続の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個人の性格や周囲の人間関係などからも、テーブル席の配置や、時には談話室のソファの位置なども変えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されたのちも施設や病院に面会に行き、様子を伺っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアカンファレンスをもとに、ご本人様の希望に沿うように会議で意見を出し合い、必要に応じた対応をしている。又、意思の疎通の難しい方は、行動や表情から検討している。	日常的には話を傾聴し、表情や行動から把握するよう努めている。又、会議で2~3人のカンファレンスをしたり、申送りで個々のチェックをして思いや意向を共有し、個々に沿った対応に結び付けるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの情報やご本人様からの会話を通し、病院、理容、日常生活の過ごし方の情報を知り、環境に大きな変化がなく、安心して過ごして頂けるようお手伝いをしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の対話や起床時の様子、バイタルチェックなどを行い、心身の状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者様の日常生活の中から、ご本人様の意向を把握し。又、ご家族様が面会に来られた時に話を伺うことで、希望に沿った計画を作成している。又、必要に応じて主治医と相談、意見をうかがっている。	担当者を中心にカンファレンスを実施し、計画作成担当者が原案を作成し、家族に提示、説明し、意見や要望を聞き、同意を得て完成している。状態安定時は6ヶ月毎に見直し、急変時にはその都度現状に即した介護計画を作成し、共有している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に時間系列で日々の様子を具体的に記入している。特別なことに関しては特記事項欄に記入することでわかりやすくし、情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院、受診介助や買い物などで、ご利用者様とご家族様の状況や希望に応じた支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の小学校の行事などに参加したり、定期的に小学生の訪問がある。地元の主婦の方が週一回ボランティアに来て下さり、一緒に体操や散歩や話し相手をして下さっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医に通院をしたいという気持ちを大切に、継続している。又、通院が難しい方に対しては往診をお願いし、今年度から訪問歯科も行われている。	入居以前のかかりつけ医を継続するかは、本人、家族が決めている。受診は家族、又は、ホームが対応し、結果については報告し合っている。状態急変時には協力医の訪問診療が可能である。協力歯科医が週一回、口腔ケアを兼ねて訪問診療に来る。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入所者様に変化が見られた場合、看護師に連絡し、診ていただき、指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時、面会をしたり、看護師からの話を伺い、常に連絡が取れる様心がけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様との十分な話し合いにより、ご希望に沿うようにしている。	入居時に常時医療が必要な状態になった場合は受入れが出来ない事を説明し、了解を得ている。重度化時、終末期に向けた方針は、その都度かかりつけ医、家族、ホームで話し合い、納得のいく対応に向けた支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故の対応は連絡先を含め誰でもわかるように文章化し、個人ファイルに大きく見やすいように記している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の消防署の方が来てくださり、避難訓練をしている。スプリンクラーの設置も終了している。	消防署と地域消防団の立会いで、年2回入居者も参加して日中想定火災避難訓練を実施している。近辺に民家が少ない事もあり、地域住民との協力体制構築には至っていない。米、飲料水、調味料、非常食品等の備蓄はある。	火災以外の災害、職員体制の少ない夜間等様々な想定に対するマニュアルを充実したり、訓練を実施する事が期待される。又、運営推進会議等を利用し、地域との協力体制構築に向けた取組みが期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人一人に言葉掛けを行い信頼関係を築いていくことを心掛けている。	生活歴を把握し、相手を尊重した言葉掛けに気を付けている。日々の生活の中で様子を観察しながら、プライバシーを傷つけないように個々の入居者に合った支援をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の希望に添えるようにお話を聞き納得していただけるように分かりやすくお話をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様に興味のある事を伺い、なるべく意向に添えるように心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様には好みの洋服を身につけてもらっている。自分で出来ない方には職員がお手伝いをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様にテーブルを拭いて頂き、3度の食事は必ず利用者様と摂るようにしている。又後片付けも一部手伝っていただいている。	栄養計算された献立に基き食材を取寄せ、畑で収穫した野菜や差入れも利用し、調理、提供している。摂取能力に応じた食事形態に配慮している。誕生日等には希望の食事や行事食等で雰囲気や気分を盛り上げ、楽しい食事としている。職員も一緒に会話を楽しみながら食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様の体調を考え、その状況に合った食事提供を心掛けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、お声かけをし、その人に合った口腔ケアをし、義歯の洗浄も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各ご利用者様の排泄パターンを把握し、お声かけにて、トイレ誘導を行っている。	自立している方、リハビリパンツ着用の方等、様々であるが、個々の排泄パターンを把握し、声掛けや誘導により、トイレでの排泄を支援している。失禁、失敗等の時は、必要に応じて居室のトイレで介助している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を充分摂っていただけるよう、お茶等の飲み物のお替りを促し、朝食時牛乳を提供している。又排泄の記録をとりチェックしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の曜日は決まっているが、ご利用者様の希望やタイミングに合わせてし、また、体調に気を配り、無理強せず、楽しい入浴が出来るように配慮している。	ユニット毎に隔日、週3回入浴支援をしている。入居者の希望により大小2浴室を利用し、ゆっくり楽しんでもらっている。気分、体調等で辞退、中止、拒否時は時間や曜日を替えて対応し、菖蒲湯、柚子湯等の季節の湯も取入れている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者様が不安な気持ちにならないよう、ナースコールを設置し、いつでも対応できる事を伝えている。また、昼食後、休憩時間を設けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各個人ファイルに処方箋を入れており、職員全員が目を通せるようになっている。そのほかに一覧表が作成されている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活や会話の中から、趣味や興味のあるものを知り、ご利用者様それぞれに合った楽しみが出来るよう創意工夫している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お誕生月の方の希望を伺い、外食のお店を決め、出かけたり、月一度の買い物デーにて、お好きな物を購入していただく機会を設けている。時には希望により、お墓参りに行く事もある。	日常的な散歩や日光浴の他、定期的に外食、買物等の外出を取入れている。季節の花見は少し遠出し、ドライブと花見を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には施設でお金の管理を行っているが、自立しているご利用者様はご自分で持っている方もいらっしゃる。買い物で買った際には職員が寄り添いお金の支払いを行う。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	玄関に公衆電話を置き、自由に利用できるようになっている。ご家族や友人にいつでも電話が出来るし、取次ぎも行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各ユニットの談話室にはご利用者様が作った作品や絵、また職員の手作りのものを飾ってある。廊下には月毎のスナップ写真を貼り、廊下を散歩する際に見ることでご利用者様同士のコミュニケーションがとれている。	全体的にゆったりとした造りで、車椅子移動も安心である。食堂兼居間は採光がよく、窓際にはソファを置き、テレビを見たり談話したりと思いの時を過ごしている。窓からは畑や庭が眺められ、四季の移り変わりを実感出来る。廊下や壁にスナップ写真や職員と一緒に作った作品を掲示している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや椅子をテレビまわりだけではなく壁側や入口付近に置く事で、どこでも自由にくつろげるような空間を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所される時にご利用者様の使い慣れた物を持って来て頂き、以前の生活と同じ様な雰囲気を保てるようにしている。	各居室にはトイレ、洗面台が設置され、排泄、手洗い、歯磨き等が落着いて出来るようになっている。テレビ、タンス、仏壇、椅子等を持ち込み、落ち着いた生活が出来るように配置等を工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行がスムーズに出来る様、廊下には手すりが設置され、談話室では自立歩行が出来る様、ソファやテーブルの配置を工夫し安全性を考慮している。リハビリやレクリエーションを多く取り入れ、運動不足の解消をしている。		